

※ 人工授精について考える

先日、当社で人工授精業務を開始するにあたり、種雄牛の選定の話合いが行われました。生産者の希望(選定基準)は以下のようなことが選定基準になりました。

1. 受胎するというのが一番
2. 生産寿命が長い牛
四肢が丈夫、
乳房・乳頭の形状(搾乳性)
体細胞指数
3. 近親交配を避ける
4. 判別精液の利用

おそらくみなさんも同じようなことを考えられていると思いますが、実際に農場の牛群系統について把握している人はどのくらいいるのでしょうか？話しの中では規模が大きくなると少なく、昔は一頭一頭把握していたが、100頭を超えた頃から限界を感じてそこから先は人工授精師まかせという方が多いようでした。

人工授精師まかせまかせということは
授精時には立ち合わない(立ち合えない)
受精時の牛の状況(子宮・卵巣)がわからない
どんな精液を授精したのかわからない

↓

コミュニケーション(会話・意思疎通)不足

↓

受胎率の低下の一因？

大学先輩で釧路管内のJAの部長さんがいます。その先輩と先日お話しする機会があり、酪農(JAの業務)で一番大切なことは繁殖(人工授精業務)ということに、今になって気が付いたとっていました。そのJAは現在、授精師の増員・技術向上や繁殖管理業務について積極的に取り組みだしたということです。

酪農で生産に結びつくところは「牛」しかないのですから当然と言えば当然の考えですが……。みなさんも今一度この人工授精(繁殖)について考えてみて下さい。

- ・ 現在 THMS 顧客農場で3農場が自家授精を実施しています。また、H21年度の北海道での家畜人工授精講習会が6/5迄3週間にわたり清水町行われています。2農場(2名)の方が難関の受講前選抜審査をパスし人工授精師資格を取るべく奮闘されています。当社でも来月より人工授精業務を始めることになりましたが、JAが主体であった人工授精業務から開業授精所や自家受精を行う農場が今後増えていくことになるでしょう
- ・ 今年のオオジギの初鳴きは4/24(去年は4/23、一去年は2年続けて4/25)でした。本当に不思議な鳥です。毎年決まった時期に遥々オーストラリアからピンポイントで渡ってきます。因みにカッコウは5/6でした。